

平成27年北栄町議会議員研修報告書

1. 日 時	平成27年10月27日～29日 2泊3日
2. 調査地	鳥取県八頭町 大阪府柏原市 大阪府泉南市 京都府綾部市 兵庫県香美町
3. 調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化の取り組みについて（直営カフェ・通信販売）</li> <li>・ 6次産業化の取り組みについて （ワイナリー・地域協働によるぶどう栽培）</li> <li>・ 6次産業化の取り組みについて （障がい者雇用の促進にむけた農福連携の取り組み）</li> <li>・ 水源の里事業の取り組みについて （限界集落の維持・再生に向けた取り組み）</li> <li>・ ふるさと教育の推進について （学校・地域における取り組み）</li> </ul>
4. 調査結果 又は概要	<p>有限会社ひよこカンパニー 大江ノ郷自然牧場の挑戦</p> <p>平飼い養鶏 2000羽からスタートし、現在3牧場（3鶏舎）を有し3万5千羽を飼育中。平成12年に「ひよこカンパニー」を設立。天美卵の名前で全国18万人の顧客に、1個百円での通信販売を中心に事業展開をしてきた。</p> <p>平成二十年に、こだわり卵の直販とスイーツを加工販売する「大江ノ郷ココガーデン」を整備。この施設は、山間地の交通不利地域にありながら大変繁盛している。「体験型農業テーマパーク」の実現に向けての新たな施設を建設中であった。</p> <p>牧場の開始から、こだわり卵・天美卵とスイーツの話、大江ノ郷ココガーデンの建設によりお客様に直接販売することによる付加価値の向上、おいしスイーツと思わせるカリスマ性など、一連の物語を持って事業展開をしていることが素晴らしい。</p> <p>リスクとしては、鳥インフルエンザ侵入による風評被害（インフルエンザが牧場で発生したら通信販売では売れないであろうとのこと）とのことだが、防疫体制についてはいくらやってもこれでよいというものはなく、地域（地元・町・県等）との連携が必要であると感じた。</p> <p>余談だが、帰ってきてから、お土産のバームクーヘンを家族に渡したところ、大好評であった。地元若者にも定着していること</p>

を感じた。

#### カタシモワインフード株式会社

遊休農地解消と大阪府柏原市による大阪ワインの復活と地域活性化と盛りだくさんの目的を持っての取り組みに、行って初めて分かることもある一例として大いに関心を持って視察できた。

カタシモワイナリー畑・工場・町歩きマップの作成を行い、「いつでも畑と古民家の並ぶ町を散策していただけるようにマップを製作致しました。弊社の看板のある畑はご自由に立ち入ってご覧いただけます。ハイキングに最適です！」※と、古民家とぶどう畑を観光地化し、レストランとのコラボなどを通じて販売強化につなげる趣向や、考え方は参考になる。

カタシモワインフード株式会社社長の高井利洋氏の案内によりブドウ畑の視察および、自社倉庫による試飲をしながらの説明は一貫して地元愛にあふれ、常に地域と生きることやブドウの加工・販売を成功させるための仕組みづくりなど熱く語らえた。とても、熱心で、情熱的で、根気強く事業に取り組まれる姿勢が感じられ、事業の成功はやはり人づくりだと痛感した。



ブドウ畑 以前は山の山頂までブドウ畑が広がっていた

#### コクヨ・ハートランド株式会社

「<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者に就労の場を提供するとともに、安全・安心な野菜の生産を通して、年々担い手や耕作面積が減少している農業の復活に貢献できる事業の実現を目指します。」※ と紹介にあるように文具のコクヨ株式会社の子会社として2007年から操業開始とのこと。

障がいのある人を正社員として雇用しており、生き生きと作業

している風景が印象的であった。生食用ホウレンソウの栽培を、ガラス温室を使い水耕栽培で、種まきから収穫・選別・袋詰め・箱詰めまでを行う。自分の能力にあった作業が根気よくできるための工夫、例えば計量の数字を大きく表示したり、箱の仕切りをつくり数の管理をすとのこと。(現在は使っていないとのことだが)

経営的には、コクヨ本社の支援がないと成立しないとのことであったが、地域貢献(障碍施設との連携や高等支援学校の生徒受け入れなど)をポイントにカウントして本社から支援を得るということになっているとのこと。

また、ホウレンソウの生産は毎日行われるが、日々の生産量は温度により変わるため、夏場は多く冬場は少ない。そのため、全量処理するためには作業時間が日々異なるが、全社員が同じ時間に出社、退社をするシステムにしてあり、障碍のある人の送迎を可能にしている。



作業所の応援を受け定植作業中

京都府綾部市

水源の里の取り組み 限界集落<sup>こや</sup>古屋の再生

限界集落と呼ばれる京都府で一番小さな集落といわれている古屋集落。男1人と女5人、85歳から91歳の村。

前市長の「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」との呼び掛け・提案が水源の里の取り組みとして提案され、1年かけて検討協議して取り組みを決めたとのこと。最後のチャンスとの思いで真剣に取り組んだ様子が、唯一の男性渡辺和重さんの言葉から伝わってきた。

村起こしの中心はとちの実を利用したとちの実おかきやとち

の実あられの製造と販売。80歳を超えても毎日朝5時から仕事をするというおばあちゃんの「今が一番幸せ」の言葉には、「最大のいじめは無視すること」との渡辺さんの言葉にも通じる。とても素敵な人生である。

GENNKAIからA（あきらめと読む）を取ると

GENNKI になるとの説明はとても素晴らしい言葉であり、今後広めたいと感じた。村おこしのキャッチフレーズに使えそう。

ボランティアが集まり、自主応援組織「古屋でがんばろう会」が立ち上がり毎年600人もボランティアが押し掛けてくる。そして自らが自主的に動くというボランティアの究極の形を提案してもらったように思った。

#### 香美町 ふるさと教育の取り組み

香美町は旧香住町・村岡町・美方町が平成17年4月に平成の大合併で出来た町。兵庫県の北部に位置し、日本海から1000メートル級の中国山脈に囲まれる、面積369㎡の兵庫県一位の面積を誇る。海岸線のかにに代表される海産物と山林と和牛の産地として、さまざまな特産品のある町である。

「香美町ならではの教育の挑戦」というテーマで担当課から説明を受けた。10の小学校と4の中学校があり、5年後の小中学校のあり方(統廃合問題)について、現状を維持するとの明確な方針が出されているということにまずびっくりした。

全小学校において、魚の三枚下ろしを学ぶということで、「ふるさとに学び夢や志を抱きふるさと香美を大切に作る人づくり」を、各校で実践しているとの事。

※ ホームページより引用

5. 所 感	<p>有限会社ひよこカンパニー、カタシモワインフード株式会社、 限界集落<sup>こや</sup>古屋の取り組みに共通し必要なことは、 無い物ねだりではなくある物探し リーダーの育成 地域連携 だと感じた。3か所すべてに、熱意と目的意識 があり、それをサポートする人たちが集まる。それは、お客であ ったり、地域の古民家の持ち主であったり、ボランティアであつ たり行政であつたり様々な立場の人が協力するからこそ成功す るのだと思う。立ち止まることなく、いつまでも前向きに行動す ることが大事であり、今後の展開に注目したい。</p> <p>コクヨ・ハートランド株式会社の取り組みは、障がい者を障碍 者と表記することから会社の取り組み姿勢を垣間見ることが出 来る。事業者としての福祉へのアプローチが成功し、今後とも長 く続くことを見守って行きたい。</p> <p>香美町 ふるさと教育の取り組みについては、ふるさと教育 をキーワードに推進されている。本町では、家庭教育12か条が 実践教育されていて、広く町民にも周知されているが、やり方は どうであれ各町の取り組みをいかに実現し実践効果を挙げるか が勝負である。香美町の取り組みに今後も注目したい。</p>
--------	---

提出〆切 平成27年11月9日